

波乱の朝鮮半島情勢

―朴大統領の弾劾と日韓関係の行方、そして北朝鮮のICBM

コリア・レポート編集長

辺

真

一

*驚くべき大統領の犯罪

*勝てば官軍、負ければ賊軍

*複雑な憲法裁判所の内情

*朴大統領の描くシナリオ

*軍が出てくる可能性も

*日本の評価が潘基文の致命傷に

*野党政権と日韓関係

*日韓関係は今のままでは動かない

*強まる北朝鮮リスク

*落とし所に知恵を絞る時



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は皆さんおなじみの辺さんに来ていただきました。北朝鮮はこのところ音無しでございますが、一方では韓国が弾劾裁判の結果が来月あたりにははっきりするということもございまして。それからここで何人かの先生が指摘されているように、トランプ政権で朝鮮半島を巡る軍事的な情勢がたいへん危ないことになるかもしれません。マティス国防長官がまず韓国へ飛んだのもおそらくそのせいだろうと思われれます。韓国の混乱はどうなるのか。それから、ICBMを撃つと言っている北朝鮮がどういう行動に走るのか。そういったことを含めて、今日はわれわれのあまり知らないお話も出てくると思いますので、最後までじっくりお聞きいただきたい

いと思います。

それでは辺さん、よろしくお願いたします。（拍手）

辺 皆さんこんにちは。

今日はいつもと違って日韓問題では皆さん方からつるし上げられるのではないかと、戦々恐々の気分でおります（笑）。なにか被告席に立たされているような感じもしないわけでもない。それはともかく、今日は韓国、そして北朝鮮とつないでお話いたします。

驚くべき大統領の犯罪

朴槿恵大統領の今のスキャンダルについては、一両日中に『疑獄―パククネの知られざる大罪』という本が発売されると思います（笑）。